

直流電気針の作用機序と肩関節周囲炎への応用

白井おうちクリニック 小田博久

それぞれの薬に薬理作用があるように、ハリ施術の作用原理が明らかであれば、ハリ施術がより効果的になると考える。それゆえ、膜電位が0に近づくハリマイナス直流マイクロカレント通電が膜電位に及ぼす作用や基電流以下では刺激とはならない“強さ時間曲線”との関係を簡単に説明する。また、全身作用を主目的とした内因性モルヒネを期待する低周波置針療法とハリ施術の局域的な作用を主たる目的とする針施術法の違いを述べる。

肩関節への施術においては、マイナス極性の直流マイクロカレントを用いた施術の“テクニックの1つ”であるドライニードル施術を紹介する。甲乙経に記載されたハリ刺入深さよりも、“圧刺入”により術者の手に知覚される針尖に抵抗を与える筋の硬さが重要である。身体は立体であることを考慮した“刺針の深さと方向”を特に重視する刺法を紹介し、炎症や虚血、あるいは血流が悪い局域的筋肉部位、つまりトリガーポイント(病的焦点)を目標とした刺針法を供覧する。